

避難情報に関する検討経緯

令和 3 年 11 月 2 日
令和 3 年 7 月からの一連の豪雨災害を踏まえた避難に関する検討会
(第 1 回)

内閣府（防災担当）

避難情報に関する近年の検討

2018年
平成30年



2018年 平成30年 7月豪雨 発生

平成30年 7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ

(検討課題)

- ・ 多種の情報ととるべき行動の関係が住民に理解されていない
- ・ 避難勧告、避難指示の違いが直感的に理解できない など

2019年
令和元年



・ 5段階の警戒レベルの運用を開始

・ 「自らの命は自らが守る」「行政は住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援」

・ 行政主導の避難対策の限界は明らか。国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しい



2019年 令和元年東日本台風（台風第19号） 発生

令和元年台風第19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ

(検討課題)

- ・ ハザードマップの認知・活用が不足
- ・ 「全員避難」の趣旨が住民に伝わっていない など

2020年
令和2年



・ 避難行動を促す普及啓発活動「避難の理解力向上キャンペーン」の全国での展開

・ 「全員避難」に関する補足的な説明を加えながら呼びかけ等、運用面の改善

令和元年台風第19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ

(検討課題)

- ・ 警戒レベル4「避難勧告」で避難せず被災する人が多い
- ・ 警戒レベル4「避難勧告」「避難指示（緊急）」の意味の違いが正しく住民に理解されていない など

2021年
令和3年



・ 災害対策基本法の改正（避難勧告と避難指示の避難指示への一本化、緊急安全確保の規定 等）

・ 新たな避難情報に関する周知

・ 「避難情報に関するガイドライン」の全面的な改定



2021年 令和3年 7月1日からの大雨、令和3年 8月の大雨 発生

避難に対する基本姿勢

- 住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、行政は住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援する必要がある。
- 住民・地域と行政が連携し様々な取組を実施していくことで、住民の主体的な行動を定着させていくことが重要である。

【平時】

住民は「**自らの命は自らが守る**」意識を持つ

- ・平時より災害リスクや避難行動等について把握する
- ・地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行い地域の防災力を高める

住民・
地域主体の取組
(自助・共助)

【平時】

- ・地区防災計画、マイ・タイムライン、災害・避難カード等の作成
- ・防災訓練や出前講座等への参加 等

【平時】

行政は、住民が**適切な避難行動をとれるよう全力で支援**する

- ・平時より、災害リスクのある全ての地域で、あらゆる世代の住民を対象に、継続的に防災教育、避難訓練などを実施し、「自らの命は自らが守る」意識の徹底や、地域の災害リスクととるべき行動等の周知をする。

行政による
地域の取組の支援
(公助)

【平時】

- ・各種計画等の作成に係るガイドライン等の作成
- ・各種計画等の作成に係る研修の実施
(対象:自治体職員、地域の防災リーダー等)
- ・個別避難計画等の作成
- ・防災訓練や出前講座等の実施
- ・防災教育
- ・ハザードマップの作成・配布 等

行政
による
支援

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）より抜粋

今回の豪雨災害は、**行政主導の避難対策の限界を明らかにし、国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しい**ということを我々に突き付けた。行政には、引き続き、避難対策の強化に向け全力で取り組むことを求めるが、加えて、国民の皆様に、下記のことを強く求める。

<国民の皆さんへ ～大事な命が失われる前に～ >

- ・ 自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・ 気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- ・ **行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。**
- ・ 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・ **避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。**
- ・ まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- ・ **命を失わないために、災害に関心を持ってください。**
- ・ あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
- ・ 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- ・ 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、**地域の皆さんで助け合いましょう。**行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。